

平成28年度 新潟市家庭部 活動報告

部長 森 千恵

1 研究主題

できる喜びを感じ、生活をよりよくしようとする子どもの育成
～実践的な態度を育てる教材の工夫～

2 研究の概要

昨年度の研修から引き続き、優れた学習課題を設定してまとめと振り返りを位置付けた問題解決的な学習を繰り返し行うこと、魅力的で体験的な活動を取り入れることで目指す子どもの姿が期待できると考え、研究主題を設定した。子どもたちが「分かる」「できる」を実感し、自分の生活に生かしたくなるような教材を提示することで実践的な態度が育まれると考え、今年度は教材開発を研究の重点とした。そこで、教材開発を内容C「快適な衣服と住まい」に焦点化し、大学教授を講師に招いた「内容Cに関わる実験実習」の研修を行い、内容Cの2つの授業研究を行った。

3 研究の実際

- (1) 「内容Cの実験実習」新潟大学 高木幸子教授（新潟市総合教育センター実習室）
 - ・実験1「不感蒸泄を感じる」：片方の手に綿手袋をし、両手にそれぞれポリ袋をつけ、手首を輪ゴムでとめる。そのまま（10分程度）で様子を確認する。
 - ・実験2「保温性（あたたかな着こなし）」：4つのお湯を入れたポリびんに、下着、ワイシャツ、セーター、カップなどをイメージさせる布を巻き付け、5分ごとに温度を測定する。
 - ・実験3「換気と通風」：4箇所穴を閉じたポリびんの中に、線香を使って煙を充満させる。その後、2箇所穴を開き、煙の流れを観察する。3つの簡単な実験を実際に体験することで、子どもの思考にそった体験的な活動を取り入れた授業を学ぶことができた。
- (2) 研究授業第6学年「暑い季節を快適に」授業者 教諭 中村庸子（中野山小学校）

自然を生かした生活の大切さが分かり、自分たちでできる暑い季節に適した快適な住まい方を工夫し、実践できる子どもの姿を目指す題材である。そこで、本時ではダンボールハウスを用意し、日差しを遮った場合の部屋の温度を調べさせる実験を取り入れた。同じ条件のもと、短時間の実験で、日光を遮るものによる気温の変化を確かめることができ、結果の違いも見られ、日光を遮るものの有効性を感じることができた。協議会では、子どもたちに実際に涼しさ、快適さを体感させることの大切さも確認された。実験結果からの有効性と実感を伴う理解が課題となった。
- (3) 研究授業第5学年「寒い季節を快適に」授業者 教諭 高橋優美（小合東小学校）

寒暖の変化や生活様式に応じて、布の性質、衣服の形を選択したり、着方を工夫したりできる子どもの姿を目指す題材である。そこで、本時では、生活経験を土台に考えたり、工夫したりできるように、内容Cの実験実習で研修した保温性の実験を取り入れることにした。子どもたちは、自分の着方を振り返ったり、グループの中でどうするとあたたかさが保てるのかを話し合ったりしながら、意欲的にポリびんにいろいろな布をイメージしながら巻くことができた。指導者からは、布の種類を多くすると素材に目を向けがちになること、着方に着目させるには、子どもたちが感じる体感温度や衣服の空気の温度の計り方が大切であることをご指導いただいた。

4 成果と課題

2つの研究授業を通して、実験・実習を意図的に取り入れた授業を構成することにより、子どもたちの主体的・協働的な姿を見ることができた。また、科学的な根拠をもとに考えることができた。今後は、より実感を伴った理解が得られるように工夫していく必要がある。